
ホワイトカレート、カノジョト

敬

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ホワイトカレット、カノジヨト

【Nコード】

N3491C

【作者名】

敬

【あらすじ】

夏の日にはカレーなんかがいい。うまいカレーを彼女と食うはずだった。ちょっとしたズレは、もしかして、大いなる「違い」なのでしょうか？

冬が終わると春はあっという間に過ぎ、夏が来た。夏にはやっぱりカレーがいい。しかも激辛がいい。

俺は夕食の買い物に出掛けたところだ。日はまだ高い。

高層ビルディングの鏡みたいな窓に映る、白い雲と水色の空を見て、ふと春先に別れた彼女のことを思い出した。付き合い始めて4ヶ月ほど経ったところ。

3月29日に生まれた彼女。

金が無くてプレゼントが買えない、と3月の29日に彼女に電話をした。

彼女は猛烈に怒った。イカツたのだ。そんなに怒るとは予想だにしていなかった俺は、電話口でただまごまごした。すると彼女はイカツたまんま、「わたしのこと、どう思ってるのよ、正直に言ってみなさいよっ」と言った。

俺は「正直に…」と呟き言った。

「悪い人じゃないって思う」

しばしの沈黙。

唐突に彼女が言った。

「もうお別れよ。さよならよっ」

そして電話は切れた。

…ホワイ？

うまいカレーが出来た。米が炊きあがるのを待つ間、あれから一度も連絡しなかった彼女に電話をかけた。

「うまいカレーができたよ。おいだよ」

彼女はやって来た。俺たちは前みたいに話せたし、彼女はよく笑った。

皿によそったカレーを、二人でテーブルに運んだ。

彼女は優雅にカレーをすくって口に入れた、と思ったら急にむせて咳き込んだ。絞り出すような声で「…辛い…辛い…」と言いながら咳き込み続ける。目尻にはうつすらと涙が。

俺の差し出したコップをひったくって、一心不乱に水を飲む彼女。その必死な姿が小さな動物みたいで、あんまりかわいらしくて、俺は、フッフ、と笑った。

テーブルの向こうから平手が飛んできて、俺はぶたれた。

「あんたはやっぱりひどい人よ。今度こそ本当にお別れよつ。バカッ」

彼女の目尻の涙がポトリとカレーに落ちて、彼女は出て行った。

え？ …… ホワイ？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3491c/>

ホワイトカレート、カノジョト

2010年10月9日06時25分発行